

平成 29 年度 事業報告書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで)

I 事業の概要

平成 3 年 9 月 18 日に設立された当財団は、平成 25 年 4 月 1 日には内閣府より認可を得て公益財団法人への移行登記を行い、公益目的事業の推進に力を注ぎ実施してきた。

公益目的事業の「1」として、前年度に引き続き、糖尿病に関する調査研究等に対する助成事業の推進を図るとともに、糖尿病に関する予防キャンペーンによる正しい知識の普及啓発活動の実施および助成を行った。また国際交流に関わる活動等も実施した。

公益目的事業の「2」として、厚生労働省が推進する「糖尿病予防のための戦略研究」のうち課題 3 (J-DOIT3) を継承し、「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入後の追跡研究 J-DOIT3」を実施してきた。

II 事業の内容

公益目的事業 1

1. 研究助成 (下記助成についてはホームページにも掲載している)

(1) 糖尿病に関する調査研究に対する助成

糖尿病合併症の種類・治療状況などの実態調査・研究、遺伝子異常による発症機構の研究、動物実験での発病メカニズムの解明を目的とする研究など、糖尿病に関する幅広く制約を設けない研究の公募を行った。応募は全国から 42 件あり、研究の計画性、予防・治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、5 名に対し総額 500 万円の助成を実施した。助成対象者は別添 1 のとおり。

(2) 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)・日本イーライリリー(株)との共同企画による研究助成

糖尿病病態下における臓器保護に関する基礎研究」または「糖尿病病態下における心腎連関に関する基礎研究」について、45 歳以下の国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 26 件あり、研究の計画性、予防・治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、3 名に対し総額 900 万円の助成を実施した。助成対象者は別添 2 のとおり。

(3) コストコホールセールジャパン(株)との共同企画による研究助成

小児又は若年発症糖尿病 (いずれも病型は問わない) に関する基礎的または臨床的研究について、45 歳以下の国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 16 件あり、研究の計画性、予防、治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 3 段階評価を踏まえた慎重な審査結果

を経て、5名に対し総額450万円の助成を実施した。助成対象者は別添3のとおり。

(4) 学術研究集会ならびに総合調査研究に対する助成

糖尿病に関する学術研究集会ならびに糖尿病の基礎的および臨床的問題に関する調査研究について応募があったものの中から、選考委員会における慎重な内容審査の結果を経て助成を実施した。助成先は別添4のとおり。

※研究助成における選考委員会の構成は以下のとおり。

| | | | |
|-----|-------|------------------|-----------------|
| 委員長 | 春日 雅人 | 国立国際医療研究センター | 名誉理事長 |
| 委員 | 石橋 俊 | 自治医科大学 | 内分泌代謝科 教授 |
| 〃 | 宇都宮一典 | 東京慈恵会医科大学 | 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 |
| 〃 | 柏木 厚典 | 社会医療法人 誠光会草津総合病院 | 理事長 |
| 〃 | 河盛 隆造 | 順天堂大学医学部 | 特任教授 |
| 〃 | 寺内 康夫 | 横浜市立大学大学院 | 分子内分泌・糖尿病内科学 教授 |
| 〃 | 山田祐一郎 | 秋田大学大学院 | 内分泌・代謝・老年内科学 教授 |

2. 糖尿病に関する予防・教育啓発活動の実施および助成

(1) 公益社団法人日本糖尿病協会との共催による糖尿病予防キャンペーン講演会を西日本地区として滋賀県甲賀市において下記のとおり開催した。来場者は約400名であった。

主 催：日本糖尿病財団・日本糖尿病協会

世 話 人：岡本 元純（大津赤十字病院 副院長）

日 時：平成29年10月15日（日）12：30～15：30

会 場：滋賀県立陶芸の森「信楽産業展示館」

テ ー マ：糖尿病をもっと知ろうよ、みんなで描く一つの輪！

開会挨拶：岡本 元純（滋賀県糖尿病協会 会長）

主催者挨拶：岩本 安彦（日本糖尿病財団 理事長）

基 調 講 演：糖尿病の重症化予防に必要なこと

（座長）大村 寧（公立甲賀病院糖尿病・内分泌内科）

（講師）西尾 善彦（鹿児島大学糖尿病・内分泌内科学）

特別講演1：「糖尿病の食事療法～今日からできる工夫とコツ～」

（座長）長尾 絢香（公立甲賀病院 管理栄養士）

（講師）中村 祥子（守山市民病院 管理栄養士）

特別講演2：「糖尿病患者さんのための足のお手入れ」

（座長）藤本 雅子（公立甲賀病院 看護師）

（講師）東 昌代（市立長浜病院 看護師）

閉会挨拶：前川 聡（滋賀医科大学内科学講座糖尿病内分泌・腎臓内科）

(2) 当財団独自の事業として糖尿病予防キャンペーン講演会を東日本地区として富山県富山市において下記のとおり開催した。来場者数は約 300 名であった。

主 催：日本糖尿病財団

世 話 人：戸邊 一之（富山大学医学部第一内科 教授）

日 時：平成 30 年 3 月 17 日（土）13：30～16：30

会 場：サンシップとやま 1F 福祉ホール

テ ー マ：その一線を超える前に、気づきたいね。糖尿病。

主催者挨拶：岩本 安彦（日本糖尿病財団 理事長）

来賓挨拶：前田 彰久（富山県厚生部 部長）

特別講演：「糖尿病と食事—どう考えればいいの？」

（座長）戸邊 一之（富山大学医学部第一内科 教授）

（講師）宇都宮一典（東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科
主任教授）

講 演 1：世代ごとの食事ポイント「おいしく食べて健康に」

（座長）臼田 里香（富山県リハビリテーション病院 副院長）

（講師）稗苗智恵子（富山短期大学食物栄養学科 准教授）

講 演 2：糖尿病？ 運動でどんなよいことあるんだろ？

（講師）山本 勝司（越前町国民健康保険織田病院内科 医師）

母心とのトークショー

「糖尿病にならないために 糖尿病になっても健康でいるために」

（座長）平岩 善雄（富山赤十字病院 病院長）

閉会挨拶：戸邊 一之（富山大学医学部第一内科 教授）

3. 国際交流に関わる活動の実施および助成

国際交流活動の一環としてノボノルディスクファーマ(株)との共同企画により、平成 28 年度まで実施したステノ研修への参加者を対象とした「Patient-Centered Diabetes Care Symposium 2018」を平成 30 年 3 月 31 日に名古屋市において開催するための助成を実施した。当シンポジウムへの参加者は 39 名であり、プログラムは別添 5 のとおり。

公益目的事業 2

「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入後の追跡研究 J-DOIT3（追跡）」の実施

本事業は、厚生労働省が政策的な糖尿病対策として推進した「糖尿病予防のための戦略研究」の 3 課題のうち、平成 18 年 6 月より被験者登録を開始した「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験（J-DOIT3）」を研究進行の途上において、これまで研究の主体であった財団法人国際協力医学研究振興財団の解散により当財団が引き続き継承することとなった事業である。

本研究では、血糖・血圧・脂質に対して従来より厳格な目標を設定した治療を行い、従来のガイドラインに沿った治療と比較して、大血管障害の進展を30%抑制できるかを検討する。これにより糖尿病の重篤な合併症抑制のための有効な介入方法を検証することができ、生命予後に直結し、高額な医療費を必要とする大血管合併症の予防につなげることができると期待される。

本研究は全国81医療施設と2,542人の被験者登録により、平均8.5年間という長期にわたる試験治療が進められ、介入研究自体は平成28年3月末で一旦終了したが、これまでの糖尿病に対する臨床研究にも比肩する期間となった。

本研究において、主要評価項目（心筋梗塞・冠動脈血行再建術・脳卒中・脳血管血行再建術・死亡）は統計学的に有意ではなかったものの19%抑制し、登録時の喫煙情報などの危険因子で補正すると24%有意に抑制する結果となり、筆頭副次評価項目（心筋梗塞・脳卒中・死亡）も有意ではないながら26%抑制された。さらに事後解析においては、脳血管イベント（脳卒中・脳血管血行再建術）を58%有意に抑制しており、副次評価項目のうち、腎イベント（腎症の発症・進展）は32%、眼イベント（網膜症の発症・進展）についても14%の有意な抑制がみられた。この研究結果は、今後の国内外の糖尿病診療ガイドラインの治療の目標値について、より厳格な方向で見直しが進む可能性がある。

また、この解析結果は平成29年9月に欧州糖尿病学会（EASD2017）にて発表するとともに、国内では協力施設の関係者向けに報告会を実施した。さらに英国科学雑誌（Lancet Diabetes & Endocrinology）への掲載も行っている。

なお、海外での研究では研究期間内で認められなかった大血管合併症の抑制効果がその後の長期観察で認められたことなどから、大血管合併症に関する研究には十分な観察期間が必要であることが近年明らかになってきている。

そこで平成28年4月からは5年間の予定で、同意のとれた被験者を対象に介入終了後の追跡研究を開始することを決定した。

具体的には、同意のとれた被験者を対象として、血糖値・血圧・脂質・体重や服薬状況に加え、治療内容や主要評価項目（死亡・心筋梗塞・脳卒中・血行再建術）、副次評価項目（全死亡、死亡・心筋梗塞・脳卒中、腎症、網膜症、下肢血管イベント）の有無について調査を継続実施している。介入研究は大血管症の予防に主眼を置いていたが、追跡研究では生命予後にも重点を置いて全死亡を新たに副次評価項目に加え、糖尿病やその治療薬と関連の深い重症低血糖、心不全による入院、悪性新生物、骨折、認知機能、QOLについても探索的評価項目として情報の収集を行っている。

介入研究の解析結果とともに、厳格かつ統合的な治療の合併症に対する長期的な効果も明らかになると期待されており、糖尿病診療の現場に与える影響も大きい。

研究全体は研究代表者が統括し、当財団理事長は研究分担者の一人としてこれを補佐するとともに、当財団は研究基盤整備やモニタリング等のサポートを実施する体制となっている。

平成29年度日本糖尿病財団研究助成金交付対象者リスト

(各100万円)

| 氏名 | 所属 | 研究課題 |
|-------|---------------------------------|--|
| 稲垣 毅 | 群馬大学生体調節研究所 代謝エピジェネティクス分野 教授 | 白色脂肪細胞ベージュ化のエピゲノム制御機構の解明 |
| 小川 佳宏 | 九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学分野 教授 | 「脂肪組織のHealthy Expansion」の分子機構の解明と 異所性脂肪蓄積改善戦略の開発 |
| 奥山 朋子 | 横浜市立大学附属病院 内分泌・糖尿病内科 助教 | 細胞外弾性線維による糖代謝制御機構の解明 |
| 酒井 寿郎 | 東北大学大学院医学系研究科 分子生理学分野 教授 | ヒストン脱メチル化酵素のリン酸化制御による白色脂肪 組織の機能変化と生活習慣病へ新規治療標的の創出 |
| 戸邊 一之 | 富山大学大学院 医学薬学研究部内科学(第一) 教授 | 脂肪組織M2マクロファージに着目した新規糖尿病治療 薬の開発 |

第4回(平成29年度)ベーリンガー／リリー糖尿病研究助成金交付対象者リスト

(各300万円)

| 氏名 | 所属 | 研究課題 |
|-------|------------------------------|---|
| 久米 真司 | 滋賀医科大学 糖尿病内分泌・腎臓内科 講師 | 細胞内浄化機構に着目した難治性糖尿病性腎症に対する新規治療標的の探索 |
| 松坂 賢 | 筑波大学医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科 准教授 | 脂肪酸組成制御による膵β細胞保護作用の分子機序の解明と新規糖尿病治療法の開発 |
| 中司 敦子 | 岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科 助教 | オルガネラ機能におけるvaspinの作用と糖尿病腎症の尿細管細胞保護機構の解明 |

五十音順

平成29年度コストコ研究助成金交付対象者リスト

(各90万円)

| 氏名 | 所属 | 研究課題 |
|--------|------------------------------------|---|
| 河盛 段 | 大阪大学大学院 医学系研究科 医学部 講師(助教) | 若年発症1型糖尿病患者における統合的臨床病態解析 |
| 高澤 啓 | 東京医科歯科大学 発生発達病態学分野 助教 | 小児先天性重症インスリン抵抗性症候群の臨床像と病態解明 |
| 福井 竜太郎 | 東京大学医科学研究所 感染遺伝学分野 助教 | 核酸認識系TLRの阻害による1型糖尿病モデルマウスの病態制御 |
| 的場 圭一郎 | 東京慈恵会医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科 講師 | 小児期発症1型糖尿病に伴う腎症の新規治療法確立へ向けた基礎的分子基盤の解明 |
| 森田 修平 | 和歌山県立医科大学 第一内科 助教 | IRE1 α を新規標的とした1型糖尿病治療薬-KIRA8-の長期有効性 |

五十音順

平成29年度学術研究集会・総合研究助成先一覧

| | 学会・研究会名 | 内 容 |
|---|---------------------------|---|
| 1 | 第33回日本糖尿病・妊娠学会 年次学術集会 | 日本糖尿病・妊娠学会の年次学術集会 |
| 2 | 第29回分子糖尿病学シンポジウム | 分子生物学的研究手法を用いた糖尿病に関する研究成果のシンポジウム |
| 3 | 第60回日本糖尿病学会 年次学術集会 | 日本糖尿病学会の年次学術集会と市民公開講座の実施 |
| 4 | J-DOIT2研究会 | 受診中断の抑制のための方法の確立をめざす「糖尿病予防のための戦略研究J-DOIT2」の後続研究 |
| 5 | 大阪糖尿病アカデミー | 地域における糖尿病患者のQOL改善に貢献することを目的として活動している学術集会 |
| 6 | 第9回日本成人病(生活習慣病)学会 教育集会 | 成人病学会の学会活動の一環として成人病学・生活習慣病学の教育啓発を行う テーマの1つとして高齢者における糖尿病の管理 |
| 7 | 小児インスリン治療研究会 | 小児糖尿病のインスリン治療に関するプロジェクト研究・コホート研究の推進 |

Patient-Centered Diabetes Care Symposium 2018

日 時: **2018年3月31日 (土) 17:00-19:30**

場 所: **JPタワー名古屋 ホール&カンファレンス**

〒450-6303 愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 KITTE名古屋3階

TEL 052-586-1800

17:00-17:05 ●開会の辞 日本糖尿病財団 理事長/朝日生命成人病研究所附属医院 所長 **岩本 安彦** 先生

17:05-18:05 ●講演

座 長

日本糖尿病財団 理事長/朝日生命成人病研究所附属医院 所長 **岩本 安彦** 先生

演 者

(17:05-17:35) 講演1: 「ソレイユ流！ ネット時代の糖尿病患者教育
～その源流は、ステノシンポジウムにあり～」

医療法人純正会 ソレイユ千種クリニック 院長 **木村 那智** 先生

(17:35-18:05) 講演2: 「進行した腎症病期を有する糖尿病患者の血糖管理」

東京女子医科大学 糖尿病センター内科 助教 **花井 豪** 先生

18:05-18:25 ●Coffee Break

18:25-19:25 ●講演

座 長

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 糖尿病内科 主任部長 **松岡 孝** 先生

演 者

(18:25-18:55) 講演3: 「肥満合併糖尿病の治療戦略
～高度肥満症に対する肥満手術の内科対応症例を含めて～」

自治医科大学 内科学講座 内分泌代謝学部門 講師 **岡田 健太** 先生

(18:55-19:25) 講演4: 「GLP-1受容体作動薬:今後の課題と可能性」

愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科 准教授 **神谷 英紀** 先生

19:25-19:30 ●閉会の辞 日本糖尿病財団 理事長/朝日生命成人病研究所附属医院 所長 **岩本 安彦** 先生

19:30-20:30 ●情報交換会